

平成31年度 学校自己評価システムシート(埼玉県立羽生高等学校)

| | |
|--------|---------------------------------------|
| 目指す学校像 | 主体的に学ぶ力と豊かな人間性を育成し、地域に開かれた学校づくりを推進する。 |
|--------|---------------------------------------|

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 生徒個々の能力や適性を把握し、少人数の良さを生かした指導方法を工夫・共有して、基礎学力の定着に努める。 2 生徒の進路意識を高めさせ、進路実現を促す指導を推進する。 3 生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせ、社会性を培い、規律ある明るい校風づくりを推進する。 4 学校自己評価システムの効果的な活用を図り、広報活動の一層の充実を努め、地域の生涯学習機関として貢献する。 |
|------|---|

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| | | |
|-----|----------|-----|
| 出席者 | 学校関係者 | 4名 |
| | 生徒 | 5名 |
| | 事務局(教職員) | 13名 |

| 学校自己評価 | | | | 学校関係者評価 | | | | |
|--------|---|-------------------------------------|---|--|--|-----|---|--|
| 年度目標 | | | | 実施日：令和2年 2月 7日 | | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校関係者からの意見・要望・評価等 |
| 1 | 年度途中から欠席が増え、未履修となる生徒が増加し、また生徒の基礎学力や学習意欲に差がある。高校生のための学びの基礎診断を活用するとともに、教師一人一人が授業力向上に努め、生徒の主体的な学びを支援する必要がある。また、今年度中に学習指導要領の改訂を踏まえた教育課程、評価、校内体制を決定する。 | 授業力向上及び生徒の登校意欲・学習意欲等の向上 | ①研究授業、公開授業、授業力校内研修会の実施等により、授業力を向上させるとともに、基礎学力向上補習を実施する。 ②新学習指導要領に基づき、教育課程、評価、校内体制を決定する。 ③受講の手引きを活用し、履修指導の工夫・改善を行うとともに、登校強化月間等を検討し、履修状況を改善する。 | ①7月及び12月実施の授業アンケート結果で、次のア・イの肯定的評価率が前年度を上回ったか。 ア 授業に対する意欲・関心 イ 授業のわかりやすさ ①基礎学力向上補習への参加生徒数が前年度より増加したか。 ②生徒の実態に応じた新教育課程の編成、評価の工夫・改善、校内体制の検討ができたか。 ③生徒の履修状況や単位修得状況が向上したか。 | ①「未来を拓く『学び』プロジェクト」における研究授業や初任者研修に係る研究授業等、積極的に取り組んだ。終了後、研究協議を実施するなど、指導力向上に努めた。授業に関するアンケートでは、「授業に関する意欲・関心」の肯定的評価は、73%(前年度57%)、授業理解度の肯定的評価は、83.0%(前年度57%)であった。授業の進捗の速度調整、わかりやすい説明の工夫、授業への参加の声かけ等の指導を継続的に行っていく。 ①夏季休業中に、「国語」「数学」「英語」の3教科で、基礎学力向上補習を実施した。前年度比+5名の参加があった。参加生徒から、「学び直しができた」と好評であった。 ②新学習指導要領に基づく、教育課程編成のためのプロジェクトチームを立ち上げ、継続的に検討中である。先進校視察に担当者派遣するなど、先進的かつ生徒が興味・意欲を持てる教育課程の編成に取り組んでいる。 ③年間を通して、授業への出席指導を丁寧に行ったことで、未履修率は、前年度比-3.8%となった。 | A | ・個々の生徒に、意欲・関心を持たせ、理解させられる授業への工夫 ・新学習指導要領に基づき、本校生の力を引き出す新教育課程の編成 ・個々の生徒の、授業に参加する意識を向上させ、履修状況の改善を達成する。 | ・授業見学をとおして、多くの授業が、少人数で行われており、大変わかりやすく、授業が行われていることがわかった。また、コミュニケーションがよくとれていると感じた。 ・夜間部は、昼間部と比べて他学年との授業での交流が少ない。学校行事等を工夫することで、交流の機会を増やしてほしい。 ・履修状況等の課題改善に向けて、授業面だけでなく学校生活全般等について、アンケートをとって活用するのもしよいのではないかと感じる。 |
| 2 | 社会性を養うために、1年次からコミュニケーション能力等を育成する必要がある。外部機関や外部講師を活用し、組織的な取組により進路意識を高め、就職・進学試験に対応する必要がある。 | コミュニケーション能力等の育成及び進路意識の向上による進路実現 | ①学校設定科目やソーシャルスキルトレーニングにより、生徒のコミュニケーション能力等を育成するとともに、バイターン情報の活用、社会体験等により社会的な生活能力を育成する。 ②就職支援アドバイザーを活用した取組、進路情報の提供及び外部機関を活用した進路行事の充実により、生徒の進路意識を向上させる。 ③就職、進学への対応を充実させ、進路未決定者を減らす。 | ①生徒アンケートの結果や感想等から、コミュニケーション能力の向上に対して肯定的な評価を得ることができたか。 ①生徒の社会体験が増加したか。 ②進路行事実施後の生徒アンケート結果等から、肯定的な評価を得ることができたか。 ③各種取組や支援が生徒の進路実現に結びつき、進路未決定者率が減ったか。 | ①「コミュニケーションI」の授業評価は、42.9%の生徒が「楽しい」といった肯定的評価を回答している一方、教科の目的がわかっていない生徒がいる。 ①進路指導部広報誌(バイターンニュース)の活用により、社会体験等の情報発信を行った。「立ち直り支援事業」に、延べ計7回参加した。2年次生及び夜間部生徒を対象に、サポートステーションと連携した、企業見学会を11月に実施した。 ②演劇型進路説明会を実施。「大変参考となった・参考となった」と回答した生徒が、95.6%おり、生徒が理解しやすい内容であった。 ③就職支援アドバイザーを活用し、面接指導等を計画どおり行った。1月20日現在、進路決定者は21名(大学:1名・専門学校:12名・就職8名)、未決定者は、8名(前年度16名)おり、継続指導中である。(決定次第更新します。) | B | ・生徒個々の進路意識は、なかなか向上しない。 ・保護者参加型の進路講演会等を実施するなど、保護者と連携を図るなど工夫した進路指導を行う。 | ・進路指導について、演劇型講演会など熱心に取り組んでいる。 ・アルバイトを推奨し、進路意識の向上に努めていることがわかる。アルバイトを経験する中、たくさん得るものがあると思う。それを見える形でまとめることにより、進路指導の教材として利用できるのではないかと感じる。 ・生徒会活動や部活動において、生徒の頑張りが十分に感じられる。 |
| 3 | 不登校経験のある生徒等に対し、引き続きSC、SSWや学習支援員等との連携を強化し、生徒のみでなく保護者へも効果的な支援を行っていく必要がある。 | 教育相談を活用した支援の充実及び外部機関との連携 | ①外部の特別支援教育コーディネーター等の活用、研修会及び情報交換会等を実施し、教育相談や特別支援教育に対する理解を深める。 ②スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)、学習支援員等と連携し、組織的に生徒・保護者の支援を行う。 ③必要な生徒について、外部機関を含めたケース会議を開催し、課題を解決する。 | ①教職員間の共通理解が更に進み日々の教育活動に活用するとともに、面談等に活かすことができたか。 ②相談室だよりを月初めに発行し、SC、SSW、学習支援員の相談日程等の有益な情報提供を保護者に行うことができたか。 ③個々の生徒にチームで協力して対応することにより、課題解決につながったか。 | ①特別支援学校のコーディネーターを活用し、特別な支援が必要な生徒への対応を個別に行った。また、校内において、教育相談情報交換会を2回、特別支援教育に関する職員研修会を11月に実施した。特に支援が必要な生徒の確認と情報の共有化を図り、指導に役立てた。 ②スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)を活用し生徒及び保護者の悩み解決や不安の払拭等(12月現在SC:133件 SSW:336件)に取り組んだ。学習支援員、多文化共生推進委員を活用し、基礎学力向上および外国籍生徒の日本語指導を行った。 ③ケース会議マニュアルを作成し、課題解決に向けた体制づくりが構築された。 | A | ・継続的に特別支援教育コーディネーター等を活用し、支援が必要な生徒への対応を個別に行う。 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、を活用した、継続的な教育相談体制の構築。 ・外国籍の生徒が増加傾向にある。日本語指導等の体制づくりが課題である。 | ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携を図り、充実した教育相談体制が構築され、相談室の活用についても周知が図られた。生徒情報については、取扱いに注意しながら全教職員で共有し、さらに懇切丁寧な教育相談を行っている。 |
| 3 | 基本的な生活習慣や社会性を身に付ける取組を行うとともに、「高校生の自動二輪車等の交通安全に関する指導要項」による交通安全教育をおこなう必要がある。 | 社会性やマナーを育む啓発的な生徒指導の推進及び新たな交通安全教育の導入 | ①問題行動やいじめ等の未然防止と早期発見のために、アンケートと個別面談を相互作用的に複数回実施する。 ②校門・昇降口での立哨指導や校内の巡回指導を実施し、啓発的な指導を充実させる。 ③改定した生徒指導マニュアルにより、原付自転車や自動二輪車の免許取得や乗車について、保護者と連携し、交通安全教育を行う。 | ①②生徒指導アンケートの基本的な生活習慣に係る諸項目が、前年度に比較して改善されたか。 ①②生徒・保護者アンケート及び面談の結果等から、生徒の規範意識が高まったか。 ③原付自転車や自動二輪車の免許取得や乗車について指導を行い、交通事故等を未然に防ぎ、高校生の命を守ることができたか。 | ①生徒指導に関するアンケートでは、基本的な生活習慣について、身についていると回答した生徒の割合が、前年度より13%向上した。生徒の問題行動については、生徒指導部を中心に全教職員で、引き続き未然防止と早期発見の指導を行って行く。 ②全校集会での生徒指導主任からの講話、校門・昇降口での立哨指導、校内の定期巡回指導を実施した。保護者アンケートで、生徒の規範意識が身についているとした割合は、69%で一層モラル向上に向けた指導を考える必要がある。 ③二輪車に関する指導マニュアルの変更に伴い、原付自転車や自動二輪車の免許取得や乗車等について、保護者と連携を図り、事故防止に向けた指導を実施した。また、県主催の安全教室に生徒を参加させ、交通安全への意識の向上を図った。 | A | ・生徒一人一人に、規範意識を持たせ、基本的な生活態度の育成を図ることが必要である。 ・原付自転車や自動二輪車の免許取得や乗車について、継続指導を行い、交通事故等を未然に防ぐ。 | ・出席生徒から、生徒同士が仲が良く、先生に相談しやすいという話が多く聞かれ、学校の明るい校風が伝わってきた。 ・二輪車に関する指導方針が大きく変更となった。生徒指導部を中心に、原付自転車や自動二輪車の免許の取得、交通事故防止等適切な指導を行っている。引き続き生徒の「命を守る」指導を行ってほしい。 |
| 4 | 様々な学校内外での行事(修学旅行、年次行事、部活動の大会等)を積極的にホームページに掲載し、中学生・保護者や地域住民等へ広報し、理解を進める。また、羽生市との連携を深め、地域の生涯学習機関としての取組内容を充実させていく必要がある。 | 本校の魅力の積極的な発信と地域貢献、関係者の理解促進 | ①各分掌、委員会、部活動等で積極的にホームページに掲載する体制を作り、学校生活等の様々な情報を掲載する。 ②本校HPや学校だより、PTA広報、羽生市報等を活用して、中学生・保護者や地域住民等へ効果的な情報発信を行う。 ③特別講座、学校公開講座の内容を充実させるとともに、その広報を工夫し、参加者を増やす。 ④生徒会を中心に地域と連携した取組を実践する。 | ①教育活動の様子やその他の学校情報を積極的に発信できたか。 ②HPの更新数とアクセス数が増加したか。 ③開講講座(科目履修生、特別講座、夏季公開講座)の参加人数が増加したか。 ④地域行事やボランティア活動に参加し、地域貢献を行うことができたか。 | ①② 学校行事の他、日々の教育活動を随時ホームページに掲載し、積極的に情報発信を行った。ネットモズV3を導入し、より見やすいものとした。本校の教育活動に関する発信件数は、前年度同時期比、72%増となった。アクセス数も前年度より増加し、本校学校生活について、理解が推進された。 ③ 科目履修(前年度比+4人)、特別講座(前年度比-7人)、夏季公開講座(前年度比+25人)、冬季公開講座(前年度比+9人)等、計画どおり実施した。各講座とも参加者から高評価をいただき、生涯学習機関として、地域に貢献することができた。また、埼玉純真短期大学・羽生市と連携した出前講座も実施した。 ④ 生徒会の生徒が、埼玉北たばこ協同羽生支部から要請を受け、未成年者喫煙防止キャンペーンに参加した。また、卒業年次生が通学路及び学校周辺の清掃活動を実施した。 | A | ・継続的かつ、積極的にホームページ等を活用した情報発信を行い、さらに地域に根づき、親しみの持たれる学校づくりを行う。 | ・学校行事の他、日々の教育活動を随時ホームページに掲載し、積極的に情報発信を行っている。中学生や保護者の多くは、学校HPから情報収集を行っている。羽生高校の特色や生徒の活躍等、継続的に掲載してほしい。 ・対象とする受講生にあった講座等を設定するなど、広報活動に一層力を入れ、羽生高校の売りをアピールするとよい。 |